



発行所 岡山県立笠岡高等学校 同窓会 岡山県笠岡市笠岡3073の2 事務局 0865 (62) 5128 印刷 株式会社印刷所

創立一二二年を迎え決意を新たに



同窓会会長 古山泰生

笠岡高校同窓会の皆様には、日頃から伝統ある本校の活躍・発展のため、格別のご支援とご尽力を賜っており、厚く御礼申し上げます。

「国家百年の計は教育にあり」と言われますが、本県には、藩を企業として考へ、空前絶後の改革を成し遂げた山田方谷をはじめ、皇室の帝王学のご進講に多大な影響を与えた箕作阮甫や治山・治水事業等により、池田光政公を補佐し、閑谷学校の前進である日本最初の庶民学校を開いた熊沢蕃山など、傑出した教育界の偉人が数多く存在します。教育の歴史で、山田方谷や箕作阮甫、熊沢蕃山などが活躍した時代の岡山の教育は、誰が見ても刮目すべきものがありました。池田光政公から脈々と受け継がれている教育県岡山の素晴らしい伝統や気概を、教育の回生に生かさないければなりません。

の若者は科学離れが進んでいると言われますが、こうしたイベントに参加することで、受験勉強では得られない科学する心を養い、全国から集まった志のある仲間との交流により視野を広げ、笠岡高校からもノーベル賞を目指す科学者や我が国の産業の未来を担う才気あふれる若者が誕生することを願ってやみません。私は先日、教育回生の手法として有効な取組を実践している島根県立隠岐島前高校を視察してきました。この高校は、就職を目指す高校でしたが、島留学制度を導入し、優秀な進学校に生まれ変わりました。

今までは、若者は都会を目指していましたが、この高校の取組は、その流れを都会から地方へという逆の発想です。しかも、それだけでなく、地方が都会あるいは世界に向けて、先導するような考え方を発信する取組を進めているのです。彼らはそれをグローバルと呼んでいます。グローバルとは、ローカルとグローバルを掛けあわせた新しい言葉です。地方から、都会の知恵や力を導入する、また、地方から世界へ発信する。そういう構

いよいよ

学校長松下 晶子



名も千鳥 床しこの丘

千鳥会の皆様には、ますます清祥のこととお喜び申し上げます。平素から笠岡高校に温かいご支援を賜っており、心より感謝申し上げます。千鳥は、今年度で創立百二十二年目を迎え、二万四千人を超える卒業生を世に送り出しております。長い歴史と伝統により培われた自由な校風の中、生徒たちは、勉学や学校行事等に熱心に取り組んでおります。全校生徒数は五百九十七名で、そのうちの約九割が部に所属し文武両道を実践しています。昨年度の部活動について一つ披露させていただきます。サッカークラブは昨年度めでたく創部五十年を迎え、OBの皆様が後輩たちに記念にと夜間照明を贈ってくださいました。それに応えるように、今年二月の新人大会でサッカー部は見事県三位を勝ち取り初の中国大会出場を果たし健闘いたしました。広島会場には千鳥を応援してくださる赤いマフラータオルが大きな波のようにはためきました。

東京支部総会報告

昭和五十九年卒 杉本 達哉

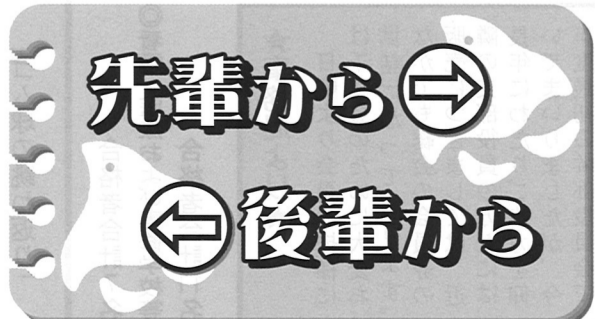
「東京支部総会を振り返って」夏の陽気となった五月三十一日、千鳥会東京支部総会が、アリスアクアガーデン品川にて、来賓に古山会長以下本部の方々、松下校長、近畿支部の藤様、招待恩師として竹正先生をお迎えし、最年長参加者の関藤守彦様、元平元治様、安原碩人様以下会員を合わせて総勢八十四名の参加の下で開催されました。



近畿支部総会報告

昭和四十七年卒 吉川(堀) 雅佳子

あつという間に過ぎた二時間あまりでしたが、支部役員や先輩方、来年度幹事の方と共に、年度幹事の全員が熱い想いとチームワークで準備を進めてきた結果が、盛況な会に結実したことに感激するとともに、改めて千鳥会の伝統の重みと懐の深さを感じました。



終の棲家か

昭和三十三年卒 中村 宣彦

昭和三十五年六月、五十万人を超えると言われる民衆が国会を取り囲み、時の政権に「安保反対」を訴えた。世に言う「六十年安保闘争」である。テレビや新聞は連日の如くこの騒乱をセンセーショナルに報道し続けていたが、卒業を翌年に控える『田舎の高校生』は何処か他人事如く眺めるのみで、この年が我が国の方角を決定づける重要な時であったことを悟るのは遙か後になつてからであった。一年間の浪人生活を経た後に上京し、諸所から集まった学生達からの刺激を受ける生活の中で母校「笠岡高等学校」が如何に平穩な

環境にあつたかを改めて知ることとなる。

そして何事もなく大学を卒業し、当たり前前の如く平凡な勤め人となり、妻を得、子を得、孫をも得、多少の有為転変はあつたものの『何となくの人生』を過ごして来た。

時を重ね、この地を『終の棲家』と定めたのは齢六五を迎えた夏であつた。街並みは変貌を遂げたが、ここは五〇年を経た今も変わるこたない早さで時を刻み、人は昔どおり穏やかな暮らしを営み続けている。

家が母校近くにあり、朝夕には大勢の生徒を見掛ける。この子ども達が今の私と同じ歳になる頃果たしてこの辺りはどう変わつていくのであろうか？



覚えていない卒業式のことば

昭和四十六年卒 天野 美彦

年を重ねるにつれて、テレビドラマは、見なくなりまし。ところが、四月からビデオを撮って見ているドラマがあります。

その中で、印象的な場面がありました。主人公の女学校卒業式での校長先生の表情と贈る言葉です。

決然とした顔でした。発した声は生徒達を叱るかのよう。力強いものでした。

覚えていない卒業式のことば

昭和四十六年卒 天野 美彦

「私の愛する生徒達よ！...今から何十年後にはあなた方がこの学校生活を思い出して、あの時代が一番幸せだった、楽しかったと心の底から感じるのなら、私はこの学校の教育が失敗

だったと言わなければなりません...：最上なのは過去にあるのではなく将来にあります。旅路の最後まで理想と希望を持ち続け進んでいくものでありますように」

昭和四十六年三月の卒業式は、新築なつた体育館で行われたと記憶しますが、恥ずかしながら校長先生の言葉の一節も憶えています。真面目に耳を傾けるような生徒ではなかったし、記憶力からも当然のことです。ドラマのスピーチは感動的でした。私達は、どんな素晴らしい言葉に送られて千鳥から巣立つたんだらうと柄にもなく思つたものです。

今、卒業式の言葉が急に甦つたなら、卒業後の四十年間は、恥ずかしく感じるところが多いだろうなあ。憶えていないことを幸いに、旅路を進みますか。



変わらないもの

昭和五十六年卒 小寺 伸司

先日、妻の実家に行ったときのことです。義父が昔の写真をとり出しました。義母は、今と変わらない笠岡高校時代の制服姿でした。何気なく見た昔の写真一枚で高校時代にタイムスリップです。そういえば、「剣道部に所属していた同級生

のSさんは、今秋笠岡でリサイクルをすることを耳にしたな。」とか、「バスケットボール部で仲の良かったH君は、四国にいと聞いたが、今どうしているんだらう。会って昔の部活の話をしていな。」と、高校時代の光景と今を行き来する自分があります。それを思い出させてくれた、今と変わらない制服に感謝です。いつまでも「変わらないもの」は、同じ時代と同じ空間で学校生活を過ごすことができた「友」です。

同窓会幹事会でも周囲からは喧嘩をしている様に見える光景も同級生同士ではそれが普通（高校時代から）の光景なのです。友と話す時にはやっぱり高校生のまんまの自分がいることに気付かされます。いつまでもたっても同じ年、顔は幾らかの年輪を重ねてきていますが、やっぱり高校時代と同じ顔、同じ接し方なのです。ただ違うのは体型と髪の毛ぐらいです。

過去があるから今がありその一端が千鳥での高校生活なのだから、これからも良き「友」に巡り合わせてもらつた千鳥（笠岡高校）に感謝し、同窓会で昔と変わらない友に再会できることを楽しみにしたいと思います。

卒業して二十年。年に数回会うサッカー部だった悪友達と、お互いオジサン化していることを話しながら酒を飲むことも少なくなつた。それぞれに家庭を持ち

卒業して20年

平成六年卒 小山 貴之

仕事を頑張っている。みんなあの頃から比べると、本当に大人になつたと思う。町で偶然出会う同級生に、違つていたら...と思うと、声をかけるのも躊躇するよ。うな年齢に差し掛かつてきたことを実感する。

高校時代の思い出は部活動。勉強は苦手で、必死でなんとかついていくながら放課後の部活動が何よりも好きだった。当時のサッカー部の顧問上野先生が言われた言葉が、今でも自分の座右の銘である。雨の日のフィジカルトレーニング、十八kmマラソンの時に言われた「己に負けるな。己に負けるのが一番つまらぬ」という言葉である。その当時私はすべてを見透かされたような気持ちでこの言葉を聞いた。

今では私も恩師と同じ教員としてサッカー部の指導をしている。サッカーを続けているうちに、仲間、恩師、先輩、後輩、家族、すべてに感謝の気持ちを持ちつながら努力する心の大切さを学ぶことができた。その原点が母校での日々詰まつているような気がする。

最後に、これからは笠岡高校で多くの根性ある若者が育ち、その伝統に磨きがかかることを願っております。



タイムマシン

平成十六年卒 杉本 良輔

もし過去の自分と出会う話せたら。時折そのようなことを思います。この度高校時代を振り返りながら考えてみました。

思い出話に花が咲くことは間違いありません。特に大切だったのがクラスの仲間と過ごせた日々です。本当に卒業したくありませんでした。そして後悔のないよう、文集の自分のページに小さな字でクラス一人一人へメッセージを書き（校長先生に、これは新聞の紙面ですか？とツツコミを頂きました）、卒業アルバムには逆に皆からメッセージを書いてもらいました。そんなことが出来るなんて本当に幸せな高校時代を過ごせたな、と互いに語るののだと思います。ですが、実はそのメッセージを見るのが恥ずかしく、この十年間どころかも開いていません。「成長してないな。」と自分を笑い合つたのでしようね。また、今どうしているのかをきくと尋ねられるかと思いますが、返答するのが少し辛いです。忙しいが口癖となり、当時の理想とは違う生活を送っている今の自分。昔は何事にも全力で取り組んでいたのに...この度反省をして、これは気持ちの若さに負けているせいだと考えました。「お前には負けないからな！」と自分に言つてやり、再び理想の自分へと向かう糧としたいと思えます。その成果発表は、また十年後の自分との対話の中で。

高校と大学

平成二十六年卒 小笠原 全汰

僕がまず話したいことは、千鳥と大学の違いです。もちろん授業時間や雰囲気など違うところは多々ありますが、僕が最も違うと感じたところは、「自由さ」です。大学は高校と違って校則がほとんどないし、自由に時間を使えます。ただ、自由には責任が伴うことは言うまでもないでしょう。自分が過ちを犯したら自分で責任を取らなければなりません。例を挙げると、講義に遅刻しても先生は何も言いませんが、成績に響き、いざれ単位を落とすことになり。ですが、何もつらいことばかりではありません。部活やサークルに入つて仲間と共に汗をかいたり、学祭などでお祭り気分を味わうことができます。在校生の方には、今のつらい勉強を乗り越えて前向きな気持ちで大学に入りたいです。

僕が今、大学に入ってから過去のことを振り返つてみると、楽しかった思い出ばかりがあたまをよぎります。千鳥祭や球技大会、先生や友達とのやりとりが、つい昨日のことのように思えます。同時に、あの時もっと勉強しておけばよかったとか、副会長としての義務を全うしておけばよかったとか、後悔もしています。だから在校生の方には、今しかない学生生活を十分に楽しんでほしいと思えます。そして千鳥のますますの御発展を心から祈っています。

部活動報告 H25年度

サッカー部 県新人大会第3位

女子バレー部 岡山県高校バレーボール選手権 岡山県ベスト8

ハンドボール部 岡山県高校ハンドボール選手権 岡山県ベスト16

山岳部 県総体 男子団体6位

第53回中国高校登山大会 岡山県予選 男子団体8位

女子団体3位 (男女とも中国大会出場)

秋季登山大会 女子団体 2位

女子個人 総合3位 原田 4位 馬場

女子バドミントン部 岡山県総体 団体ベスト16

岡山県秋季大会 団体ベスト8

ダブルス二階堂・山川組 ベスト16

陸上競技部 県総体 男子8種競技 藤井直人 第7位

岡山県高校新人陸上競技大会 男子5000m 竹之内一志 第7位

男子ハンマー投げ 横山祥悟 第7位

文芸部 高校生文芸道場 詩部門「逃げ水」栗田大雅 優秀賞 中国大会出品

文芸部誌部門「塔」 入選 中国大会出品

書道部 第59回岡山県児童生徒書道展 岡山県高等学校書道連盟会長賞

物理部 日本物理学会 第10回Jrセッション 奨励賞 「ゴム球の跳ね返り」

資格者合計7名

看護・医療および専修学校等 資格者合計11名

★事務局より★

日頃より会員の皆様には千鳥会のために大変お世話になっております。なかでも総会の会員券の販売につきましては、近隣の支部役員の方々に、長年にわたりご協力を仰いでまいりましたが、今年度最初の幹部役員会で、支部役員の方々の負担軽減のため、来年度から次のように変更することになりました。

○5月ごろ開催される合同役員会には支部長の出席を求めない。

○総会に関するポスター掲示と券の販売は原則依頼しない。ご理解をお願いいたします。